



松戸市立総合医療センター

医療連携 News

第214号 (2025.3)

編集・発行 松戸市立総合医療センター 地域連携室
〒270-2296 千葉県松戸市千駄堀993-1 電話 047-712-2511 (代)
<https://www.city.matsudo.chiba.jp/hospital/>

医療機関各位

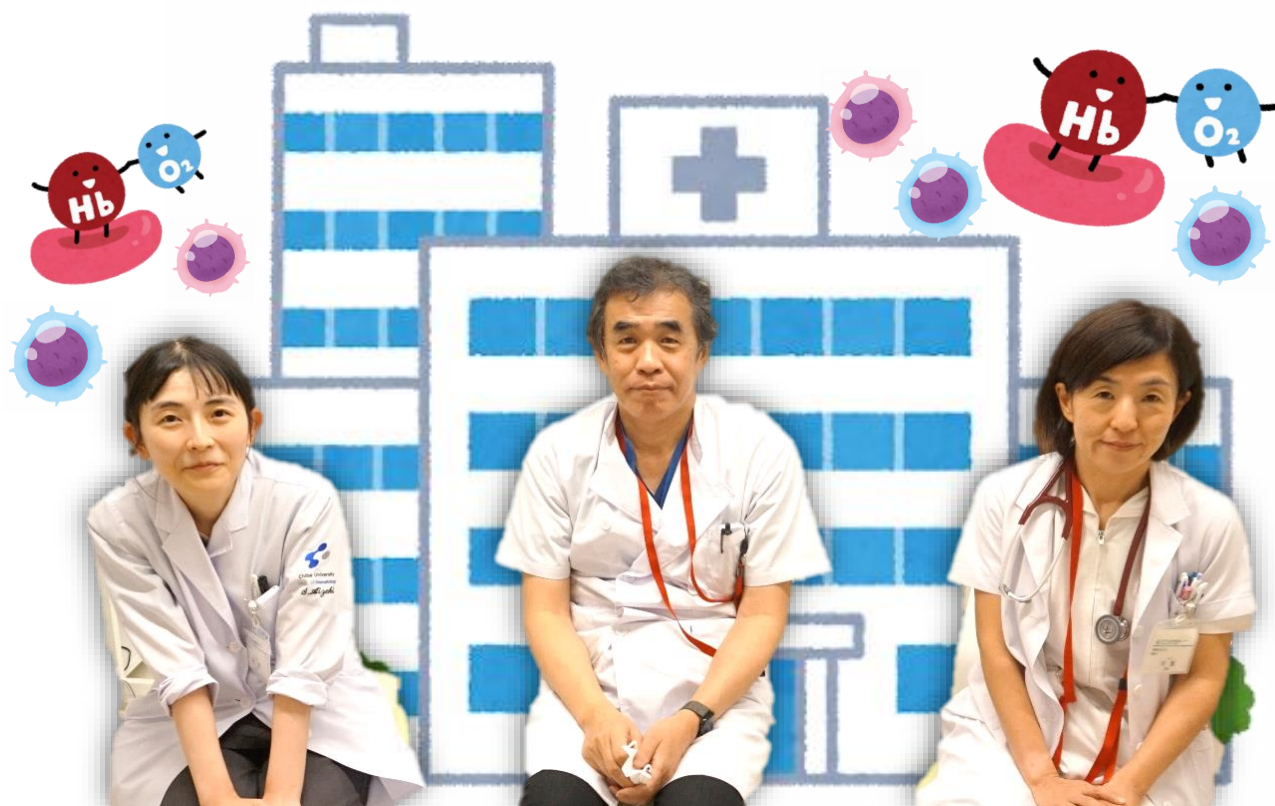
松戸市立総合医療センター
病院長 尾形 章

早春の候、ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
平素より、当院に対して一方ならぬご支援を賜りまして、厚くお礼申し上げます。
医療機関の皆様方へ毎月お送りしております「医療連携News」を是非ご覧いただき、また患者さんへ必要な情報を提供いただけましたら幸甚に存じます。



血液内科のご案内

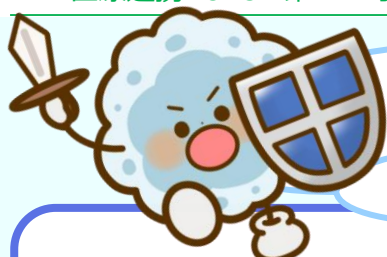
今号では、血液内科をご紹介します。
当院血液内科は、常勤医 3名 非常勤医 3名体制で診療にあたっています。
2025年1月 外部から専門の先生を招いて専門外来を開始いたしました。
詳しくは、今号後半にてご紹介いたします。是非ご覧ください。



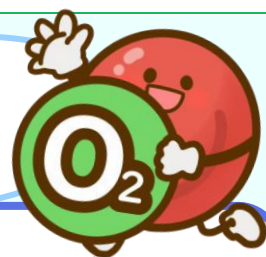
相関 祥穂 医長

藤川 一壽 部長

布施 弘恵 副部長



映画「はたらく細胞」は ご覧になりましたか？



2024年の冬公開の映画、「はたらく細胞」！！からだの中で細胞たちがそれぞれの役割を果たしつつ、協調して運営していく様を擬人化して描いたマンガが原作です。2014年に最初の読み切りマンガが発表され、2018年にはテレビアニメ化され、今回はついに実写化されたのです。白血球が、白塗り無表情で病原体から体を守ろうと活躍したり、新米赤血球が表情豊かに酸素を運んで身体中の細胞の働きを応援したり、ナチュラルキラー細胞のアクションもカッコよかったですし、個人的には、肝細胞が相変わらずの美貌で、印象に残りました。これらの細胞の働く舞台となる人体は、女性の体ですが、この方がある病気になって、抗がん剤や放射線治療、造血幹細胞移植を受けます。その結果、元からいた血球たちはただでさえ病気に蝕まれた上に、それらの治療によってさらに弱っていきます。だんだん劣勢になりながらも懸命に戦う姿がたまらなくいいらしいのです。最後は病気の細胞と同じく、元からいた血液細胞はいなくなり骨髄移植によって新しい血液細胞に一新されるのですが、その中でも新しい白血球、赤血球は昔と同じく自分たちの使命を積極的に果たしていくのです。思わず、「ありがとう、僕の（私の）血球たち！」と思いました。医学的にも各細胞の働きなどは正確に表現されていることが知られています。私の知らなかった事実（マクロファージが赤芽球(=赤血球の赤ちゃん)を育てているなんて！）もあって、勉強になりました。



皆さんの体の中には、赤い色をした血液が流れています。血液の赤い色は、赤血球の中にあるヘモグロビンという赤い色素のせいです。この色素が何らかの原因で減少することを貧血と言います。体の細胞に酸素を運ぶヘモグロビンが足りないので、歩いた時に息切れが起こりやすくなります（ふらついたり、気を失ったりは貧血の症状ではありません！）。また、白血球はがん化することがあり、白血病や悪性リンパ腫などの造血器腫瘍を起こします。その結果、人間の生存に必要な血球が減ってしまったり、重要な臓器に障害が起きたりします。私たちの仕事は、血球が減った原因を突き止め、足りないものを補充したり、減少した原因を調べてその力を弱めたりして血球を増やすことです。また、主がん化によって血球が増えた場合は、抗がん剤治療でそれを減らし、治癒を目指します。

抗がん剤といえば、



非常に辛い治療

食欲不振

髪が抜ける

吐き気

痩せる

現在は



仕事と両立しながら
治療を完遂できる

副作用を抑える
薬が多く開発



というイメージだと思いますが、

しかしながら、やはり抗がん剤である以上、ある程度の副作用は避けられませんし、抗がん剤の発がん性、というものも患者さんの将来にはマイナスになってしまいます。以前から、「抗がん剤以外の薬でこれらの病気を治せないか」というニーズは多くあったのですが、「世界中でなぜがんになるのか」という研究が行われた結果、一部の白血病ではいわゆる抗がん剤を全く使わずに、分子標的薬と言われるがんの原因遺伝子の作用を直接阻害するような薬を使ったり、腫瘍細胞に特徴的な細胞表面のタンパク質を標的とした抗体を組み合わせたりして、抗がん剤を使わない治療が行われるようになりました。さらに最近ではCAR-T療法や二重特異性抗体といった、患者さんの体がもともと備えているTリンパ球を利用して、がん細胞を攻撃させる治療が利用可能となってきました。これらの治療にもちゃんと副作用があるので、抗がん剤じゃないから安全、ということはありません。しかし、体への負担は従来の治療に比べて確実に減っており、高齢者であってもこうした治療の恩恵を得ることができます。2000年以前と比べれば、一部のまだ治療法が見つかっていないもの、遺伝子の老化が遠因となっているものなどを除けば、血液腫瘍の患者さんの生存期間は確実に延長しています。私たちはできる限り、皆さんが最新の治療の恩恵を受けられるように、今後も研鑽を続けてまいります。

【当院で診断あるいは治療を開始した件数】



分類	2021年	2022年	2023年
悪性リンパ腫	67	57	50
多発性骨髄腫	17	14	12
慢性リンパ性白血病	2	3	5
急性リンパ性白血病	5	2	6
成人T細胞性白血病・リンパ腫	1	2	0
急性骨髄性白血病	16	12	13
慢性骨髄性白血病	10	14	10
骨髄増殖性疾患	19	11	11
骨髄異形成症候群	26	26	31

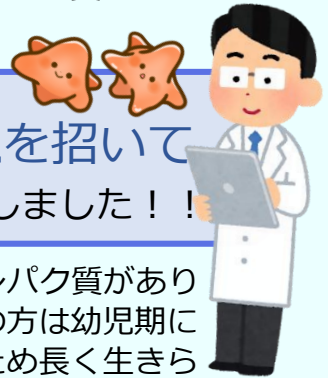
患者さんの受け入れを一時制限していた時期もありましたが、現在は患者さんの受け入れ態勢も充実してきております。

今後も更に充実した診断・治療を行うために、完全紹介予約制に変更いたします。

2025年1月より

外部から専門の先生を招いて

血友病/凝固異常の専門外来を開始しました！！



血液中にはまた、出血が起きた時に血液を凝固させるタンパク質があります。これらの一部が先天的に作れない病気があり、多くの方は幼児期に発症し、何らかの出血症状を示します。以前は出血症状のため長く生きられない病気でしたが、これらのたんぱく質を補充するためのいろいろな製剤が開発され、健康人とかかわらないくらい長生きできるようになってきました。これまでは主に小児科の先生がこの病気の治療をされてきましたが、寿命が延びるにつれて成人病の管理を必要とする方も増え、徐々に血液内科に移って治療されるようになってきました。しかし、患者さんの絶対数が少ないこともあり、私たちの力では経験不足の感が否めないのが問題となっていました。

そこで、各月の第1・4水曜の午後にまずは当院に通院中の成人の患者さんを診療することから開始し、

4月からは外部からの紹介もお受けできるようになる 予定です。

血液内科の外来受診に関するお知らせ

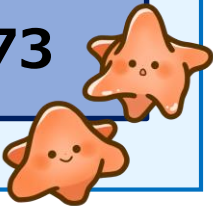
2025年4月より、血液内科は、**完全紹介予約制**へ変更いたします。
特定の日に新規患者さんが集中してしまうことを防ぎ、一人当たりの十分な診療時間を確保するための処置ですので、ご理解とご協力をお願いいたします。

患者さんからの電話予約、もしくは医療機関からのFAX予約をお願いいたします。
※診療情報提供書がお手元にある状態でご連絡をお願いいたします。



地域連携室（紹介予約担当）

TEL047-712-0685/FAX047-712-2573



臨時休診等お知らせ（2025年2月19日現在）

3月 医師の休診		
泌尿器科	武井医師	3日（月）
整形外科	河本医師	3日（月）、5日（水） 10日（月）、12日（水）
	鈴木（諒）医師	10日（月）
	守屋医師	12日（水）
脳神経外科	田島医師	6日（木）
	渡邊医師	7日（金）
糖尿病・代謝・内分泌	時永医師	13日（木）
眼科	樋口医師	17日（月）
	太和田医師	17日（月）、26日（水） 27日（木）、28日（金）
小児科	上原医師	25日（火）
耳鼻いんこう科	武山医師	26日（水）、27日（木） 31日（月）
呼吸器内科	石崎医師	28日（金）